

JUMP

1

2013
J A N

平成24年12月30日発行



元気企業
訪問

加美電機
株式会社

ひょうご海外ビジネス センターを活用

P6 活性化センター・カレンダー

P7 支援ネットのひろば

●情報カレンダー

●兵庫県信用保証協会かわら版
経営力強化保証の
ご案内

●孫の疑問に答える
博学ご隠居の技術談義
タンニン

P10 成長期待企業のイチオシ!

翔飛工業株式会社
エコ瓦

今月の支援メニュー

ひょうご海外 ビジネスセンター

海外進出に関する相談の受け付けなど、海外へビジネス展開を考えている県内企業を支援。アジアの主要都市に設置した「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」での現地対応も充実。

ひょうご産業活性化センターは、ひょうご海外ビジネスセンターを通じて中小企業の海外進出を後押ししています。停電時にも点灯する充電式LED電球「レス球」を開発した加美電機株式会社は、バングラデシュ政府からの要請を受け、このほど首都のダッカ郊外に進出。1月から工場が稼働しています。



元気企業
訪問

加美電機
株式会社

停電時に点灯する LED電球を開発 Bangladesh政府の 要請で現地生産開始

阪神・淡路大震災を契機に 「レス球」を開発

池田一社長は昭和58年、カーオーディオの完成品製造会社から独立して加美電機を設立しました。以来、プリント基板実装で事業を拡大し、タッチパネル、カーナビ、OA機器、ATMメーカーなどと取引を広げてきました。

阪神・淡路大震災で停電し被災地の生活に大きな影響を及ぼしたことから、「自社の持っている技術で何とか停電時にも点灯し続ける防災用の照明を作りたい」と考え、開発したのが「レス球」です。通常のLED電球と違い、内部にニッケル水素電池を内蔵しており、停電時でも3時間ほど点灯し続けます。また、取り外すと懐中電灯代わりとしても使えます。口金サイズは一般的な家庭用電球と同じE-26を採用しています。限られたスペースの中に電池を収めるのに苦労したそうです。

当時は白色LEDがようやく市場に出回り始めたところで原価が高くつき、商品の値段がどうしても1万円ほどに跳ね上がってしまいました。販路を開拓しようとする相談会に参加したところ、「そんな高いものは売れるはずがない」と頭ごなしに否定され、帰るなり千個あった在庫を処分してしまったそうです。

その後しばらくして、LEDの原価が下落したこともあり、商品化に再チャレンジ。回路設計を改良することで値段を抑え、家庭や事業所向けに少しずつ売れ出しました。

転機となったのは東日本大震災です。災害への備えや節電への意識の高まりで「レス球」に注目が集まり、2千個あった在庫が一気になりました。現在は売価を3千円～4千円まで下げた新商品を開発中です。

英文表記のホームページが Bangladesh政府の目に留まる

この「レス球」に Bangladesh政府から問い合わせが入ったのが平成23年9月のこと。 Bangladeshでは電力インフラの整備が追いついておらず、1日に何度も停電が生じ、場合によっては1時間以上停電することもあるそうです。省エネで停電対策にもなるLED商品

を探していたところ、ムハンマド・エナムル・ハク電気エネルギー省担当大臣の目に留まったのが加美電機の英文ホームページでした。池田社長は、大臣と知己の在日 Bangladesh人、ラジャ氏の仲介で11月に Bangladeshを初訪問。ハク大臣から強い要請を受け、進出を即決。「 Bangladeshの失業率は45%。非常に貧困層が多く、雇用の場をつくることで、何とかこの国の役に立ちたいと思いました」

12月にはラジャ氏の出資も得て「KAMI ELECTRONICS INTERNATIONAL BANGLADESH LTD」を設立。12年5月にはハク大臣や佐渡島志郎在 Bangladesh大使



Bangladeshの工場の建設風景

も参加して起工式が行われました。「全てがとんとん拍子で怖いくらい。ラジャ氏やハク大臣とのつながりがなければここまで来ることはありませんでした」と人脈の重要性を強調します。

雇用を増やし バングラデシュに貢献を

約3千坪の敷地に3階建ての工場を建設し、そのうちの1、2階部分を使って1月からレス球の生産を開始。販路につ

いては、現地のパソコンチェーン店や建設業者が協力に名乗りを上げているそうです。当面は従業員20人を採用し、販売に応じて生産能力を増強していく計画です。昨年10月からは現地の工場でリーダーの役割を果たす5人のバングラデシュ人を本社の工場に受け入れ、研修を実施してきました。

「人件費は中国の5分の1。真面目で器用な国民性で、親日家が多い。なんとか雇用を増やしてバングラデシュ

の人たちのために貢献したい」と池田社長。日本からバングラデシュに進出している企業はまだ非常に少ないのが現状ですが、ひょうご産業活性化センターでは、ハク大臣が来日したタイミングを捉え、平成24年9月に、バングラデシュ進出支援セミナーを神戸で開催しました。バングラデシュに進出した日本企業のパイオニアとして、加美電機が現地でどのように事業を成功に導くのか、注目が集まっています。

会社概要
加美電機株式会社

所在地 多可町加美区熊野部223-13
代表取締役社長 池田——
事業内容 LED照明の開発・製造・販売、各種電子回路実装

基板の製造等
TEL 0795-35-0071
URL <http://www.kamidenki.jp/>

支援メニュー講座

ひょうご海外ビジネスセンター

県内企業の皆さまの 海外ビジネス展開をサポートします。

ひょうご海外ビジネスセンターでは、東南アジアをはじめとする海外へビジネス展開を考えておられる県内企業の海外展開を支援しています。

海外展開にかかるさまざまな課題についてのご相談に応じるとともに、アジア主要都市（5カ国7都市）に「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置し、現地最新情報の提供など現地での対応もできるようにしています。また、兵庫県の海外事務所や日本貿易振興機構（JETRO）等、関係機関との幅広いネットワークを活かして、皆さまの海外での各種事業活動をサポートします。

<海外ネットワーク>

○ ひょうご国際ビジネスサポートデスク

- ・中国（上海、広州、大連）
- ・ベトナム（ホーチミン）
- ・インド（デリー）
- ・インドネシア（ジャカルタ）
- ・タイ（バンコク）

○ 兵庫県海外事務所

- ・米国（兵庫県ワシントン州事務所）
- ・フランス（兵庫県パリ事務所）
- ・オーストラリア（西オーストラリア州・兵庫文化交流センター）
- ・ブラジル（パラナ州クリチーバ・兵庫県ブラジル事務所）
- ・中国（兵庫県香港経済交流事務所）

問い合わせは ひょうご海外ビジネスセンター TEL 078-302-2050

